

# 観光地タイプ別にみる観光が作用した 地域課題とその改善方策に関する研究

大分大学 理工学部 創生工学科 建築学コース  
建築・都市計画研究室  
2057409 宇土 沙希

# 1.研究の背景と目的

現在,適切な**観光地マネジメントのあり方**が世界共通の課題とされている<sup>1)2)</sup>

**観光** 宿泊業,伝統工芸・農林水産等の**関連産業の裾野が広い**  
**地域の経済・雇用を支えるとともに,地域資源の維持・発展**にも資する効果<sup>3)</sup>

日本各地の地域経済の衰退・産業の担い手不足等の**地域課題の改善**に作用している**事例**も複数報告されている<sup>4)5)</sup>

このような事例の全体を見据えた,地域課題の改善方策の傾向を明らかにした研究や報告は確認できない

(1)①**立地条件**や②**観光資源の種別**の傾向

(2)①②の地域特性に**基づいて観光地を類型化**し,各類型の**地域課題や取り組み**の傾向

**目的** 観光が地域課題の改善に作用した事例に着目し観光地の特性に応じた**地域課題の改善策の傾向**を明らかにする

## 本研究における地域課題

産業の担い手不足や文化の継承をはじめとした**地域住民の生活環境等に生じている課題**を地域課題と定義

1)UNWTO 「‘Overtourism’? - Understanding and Managing Urban Tourism Growth beyond Perceptions,(Executive Summary)」2018年,p4

2)観光庁・UNWTO駐日事務所「日本版持続可能な観光ガイドライン」2020年6月  
URL:<https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001350849.pdf>

3)観光庁「アフターコロナを見据えた観光地・観光産業の再生に向けて～稼げる地域・稼げる産業の実現～(最終とりまとめ)」令和4年5月

URL: <https://www.mlit.go.jp/kankocho/iinkai/content/001483896.pdf>

4)福山貴史,西山徳明(2021,10)『未利用地域資源の活用による観光まちづくりの発展プロセスー比較分析に基づくインターナル・マーケティングの有効性に着目してー』(社)日本都市計画学会都市計画論文集, No.3, pp.1231-1238

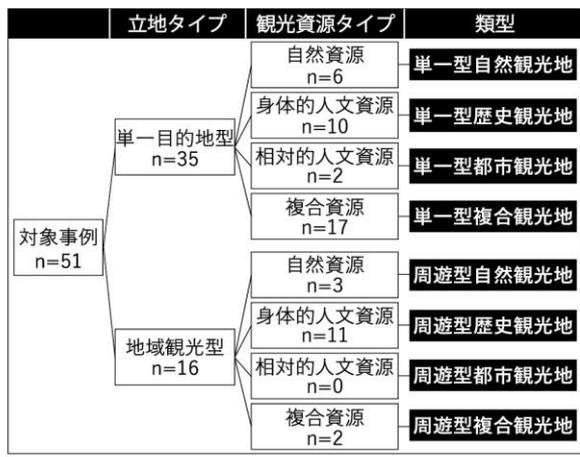
5)「季刊しま 離島振興法改正」公益財団法人日本離島センター 第68巻,第4号,令和5年3月31日発行

# 2.対象事例の立地と観光資源の特徴

**【対象事例の選定方法】**

地域活性化等に関する文献<sup>6)~14)</sup> 16件  
 観光庁による「持続可能な観光の実現に向けた先進事例集」<sup>注2)</sup> 115件  
 「GDTOP100」<sup>注3)</sup>の国内事例 39件

**観光が地域課題の改善に作用している事例**  
**▶計51件を研究対象とする**



対象事例51件を,立地タイプと観光資源タイプ(表1)によって分類  
 立地タイプと観光資源タイプによって事例を類型化(図1)

表1 立地タイプと観光資源タイプの定義と件数

		定義
立地タイプ	単一目的地型	事例に示される観光地内で,観光客の分散が不可能,または,観光客の総量規制が一定程度可能な場所
	地域観光型	事例に示される観光地内で,観光客の分散が可能,または,観光客の入場を制限できない場所
観光資源タイプ	自然資源	山岳,高原・湿原・原野,湖沼,河川・峡谷,滝,海岸・岬,岩石・洞窟,動物,植物,自然現象,温泉
	身体的人文資源	史跡,神社・寺院・教会,城跡・城郭・宮殿,集落・街,郷土景観,庭園・公園,橋・塔,年中行事,建造物,食
	相対的人文資源	動植物園・水族館,博物館・美術館,テーマ公園・テーマ施設,芸能・興行・イベント
	複合資源	複数の観光資源タイプを有する

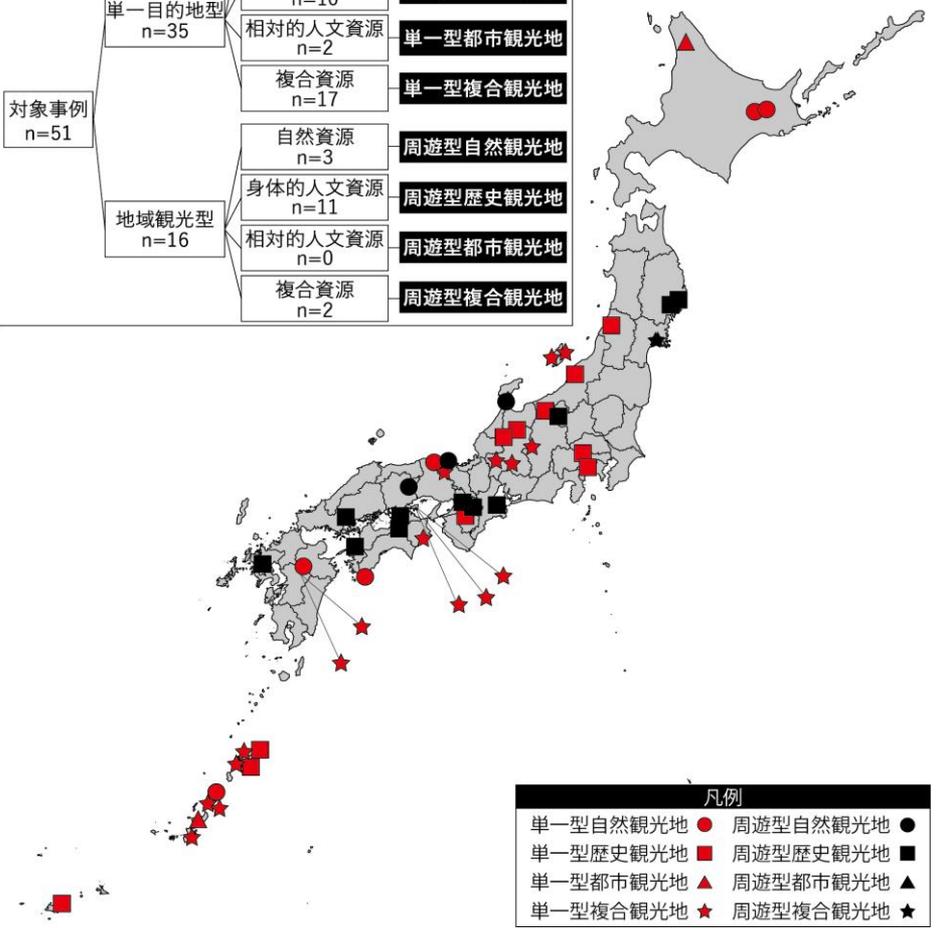


図1 観光による地域課題の改善がみられた観光地の類型と分布

注2) 参考文献の2)16)17)の3つの事例集を指す。  
 注3) Green Destinationsの公式ホームページよりレポートが確認できた2020年から2023年のGDTOP100の国内事例を指す。

## 2.対象事例の立地と観光資源の特徴

	立地タイプ	観光資源タイプ	類型
対象事例 n=51	単一目的地型 n=35	自然資源 n=6	単一型自然観光地
		身体的人文資源 n=10	単一型歴史観光地
		相対的人文資源 n=2	単一型都市観光地
		複合資源 n=17	単一型複合観光地
	地域観光型 n=16	自然資源 n=3	周遊型自然観光地
		身体的人文資源 n=11	周遊型歴史観光地
		相対的人文資源 n=0	周遊型都市観光地
		複合資源 n=2	周遊型複合観光地

	立地タイプ	観光資源タイプ	類型
対象事例 n=51	単一目的地型 n=35	自然資源 n=6	単一型自然観光地
		身体的人文資源 n=10	単一型歴史観光地
		相対的人文資源 n=2	単一型都市観光地
		複合資源 n=17	単一型複合観光地
	地域観光型 n=16	自然資源 n=3	周遊型自然観光地
		身体的人文資源 n=11	周遊型歴史観光地
		相対的人文資源 n=0	周遊型都市観光地
		複合資源 n=2	周遊型複合観光地

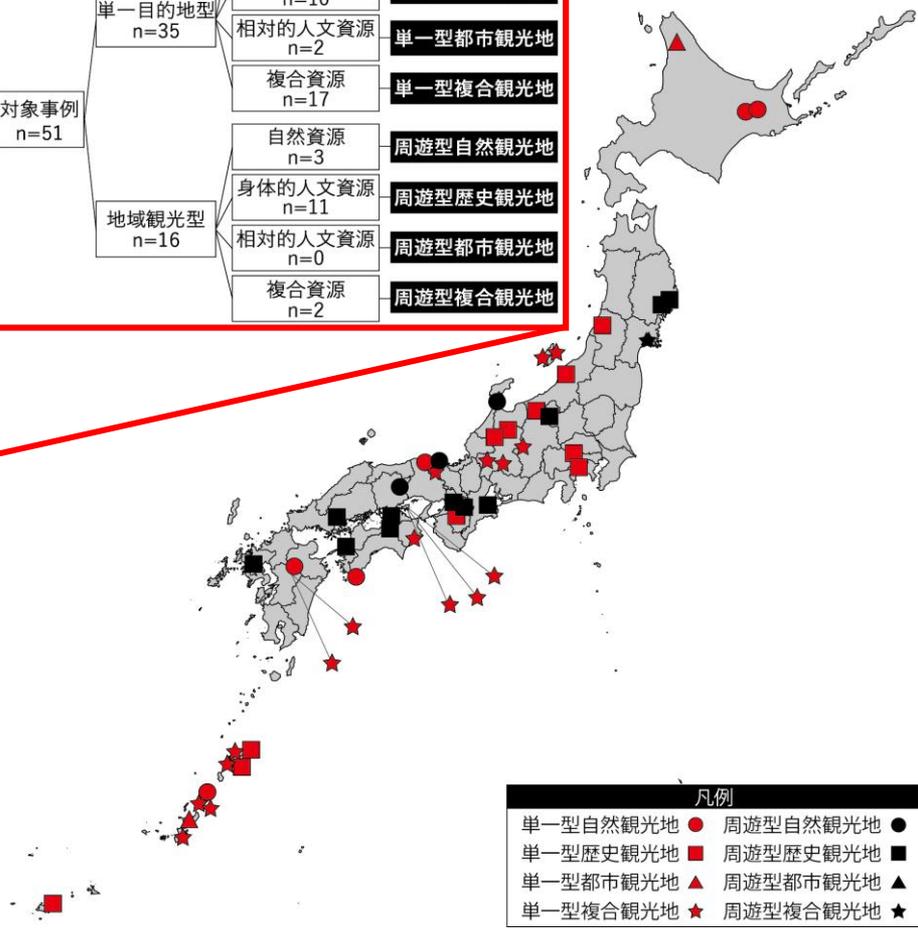


図1 観光による地域課題の改善がみられた観光地の類型と分布

### 立地タイプ

観光が地域課題に作用している観光地は、「単一目的地型」(35件)に多い

### 観光資源タイプ

「複合資源」(17件)が「単一目的地型」(35件)の約半数を占めている

範囲が狭小な地域では観光による地域課題の改善策の効果が発揮しやすい可能性がある  
 自然資源や郷土景観等の地域特有の資源を複合的な観光資源として利用

### 3.地域課題と取り組みの特徴(地域課題)

対象事例51件を地域課題と取り組みによって分類し,設定した類型ごとに傾向を考察

表2 地域課題の定義

	定義
人口減少	人口減少、少子高齢化、過疎化、空き家の増加
農林水産業衰退	農林水産業の担い手不足や活動継続、生産量の低下、耕作放棄地の増加
地域工芸・工業衰退	伝統工芸の後継者不足、工芸品の生産量や売り上げの低下、技術の継承問題
自然環境問題	動植物の減少、自然環境の悪化
地域文化の継承問題	集落の存続、伝統文化の人手不足や継承問題
災害復興	災害からの復興
インフラ・観光問題	交通による環境負荷や公共交通運賃の高額化、交通渋滞、観光を要因とする課題

表3 類型ごとの地域課題の件数

項目 \ 類型	自然単 観光地		自然周 観光地		歴史単 観光地		歴史周 観光地		都市単 観光地		都市周 観光地		複合単 観光地		複合周 観光地		件数/ 割合	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
人口減少	3	30%	1	25%	0	0%	2	15%	1	33%	0	0%	7	21%	1	33%	15	19%
農林水産業衰退	1	10%	1	25%	3	25%	0	0%	1	33%	0	0%	6	18%	0	0%	12	15%
地域工芸・工業衰退	0	0%	1	25%	2	17%	2	15%	0	0%	0	0%	3	9%	0	0%	8	10%
自然環境問題	4	40%	1	25%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	8	24%	0	0%	13	16%
地域文化の継承問題	1	10%	0	0%	7	58%	5	38%	1	33%	0	0%	7	21%	0	0%	21	27%
災害復興	0	0%	0	0%	0	0%	2	15%	0	0%	0	0%	1	3%	1	33%	4	5%
インフラ・観光問題	1	10%	0	0%	0	0%	2	15%	0	0%	0	0%	2	6%	1	33%	6	8%
計	10	100%	4	100%	12	100%	13	100%	3	100%	0	100%	34	100%	3	100%	79	100%
該当事例数	6		3		10		11		2		0		17		2		51	

### 3.地域課題と取り組みの特徴(地域課題)

#### 【類型×地域課題】

**自然観光地**  
**【単一型】**  
 人口減少, 自然環境問題

**歴史観光地**  
 地域文化の継承問題

**複合観光地**  
**【単一型】**  
 人口減少, 自然環境問題,  
 地域文化の継承問題

表3 類型ごとの地域課題の件数

項目	自然単一観光地		自然周遊観光地		歴史単一観光地		歴史周遊観光地		都市単一観光地		都市周遊観光地		複合単一観光地		複合周遊観光地		件数/割合	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
人口減少	3	30%	1	25%	0	0%	2	15%	1	33%	0	0%	7	21%	1	33%	15	19%
農林水産業衰退	1	10%	1	25%	3	25%	0	0%	1	33%	0	0%	6	18%	0	0%	12	15%
地域工芸・工業衰退	0	0%	1	25%	2	17%	2	15%	0	0%	0	0%	3	9%	0	0%	8	10%
自然環境問題	4	40%	1	25%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	8	24%	0	0%	13	16%
地域文化の継承問題	1	10%	0	0%	7	58%	5	38%	1	33%	0	0%	7	21%	0	0%	21	27%
災害復興	0	0%	0	0%	0	0%	2	15%	0	0%	0	0%	1	3%	1	33%	4	5%
インフラ・観光問題	1	10%	0	0%	0	0%	2	15%	0	0%	0	0%	2	6%	1	33%	6	8%
計	10	100%	4	100%	12	100%	13	100%	3	100%	0	100%	34	100%	3	100%	79	100%
該当事例数	6		3		10		11		2		0		17		2		51	

人口減少をはじめとした**地域文化の継承**や**地場産業の存続**等が地域課題になっていることがわかる

# 3.地域課題と取り組みの特徴(取り組み)

表4 取り組みの定義

	定義
制度・計画策定	計画やルールの策定、制度の創設や導入、観光や地域課題の改善に特化した独自の課の設置等
団体設立	団体の設立
施設整備	公共性の高い公園や施設、設備の整備、レンタサイクル等
民間施設整備	民間事業者による店舗の開設等
広告活動	新聞の創設、テレビやSNSによる宣伝等
調査	モニタリング調査やアンケート調査の実施
資金調達	入湯税等の税金の徴収、ファンドの組成、財源の確保
商品開発	特産品等の商品や体験プログラムの開発・販売
担い手育成	担い手や人材の育成のための事業の実施、ガイドの養成等
イベント開催	イベントやお祭りの開催
環境保全	清掃活動や農法の開発、食品残渣の活用等

表5 類型ごとの取り組みの件数

項目	自然単 観光地		自然周 観光地		歴史単 観光地		歴史周 観光地		都市単 観光地		都市周 観光地		複合単 観光地		複合周 観光地		件数/ 割合	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%		
制度・計画策定	4	25%	0	0%	1	5%	7	18%	2	33%	0	0%	12	21%	2	50%	28	19%
団体設立	2	13%	1	17%	1	5%	5	13%	1	17%	0	0%	3	5%	0	0%	13	9%
施設整備	1	6%	0	0%	2	10%	4	11%	2	33%	0	0%	8	14%	0	0%	17	12%
民間施設整備	1	6%	2	33%	3	15%	2	5%	0	0%	0	0%	2	4%	0	0%	10	7%
広告活動	1	6%	0	0%	1	5%	1	3%	0	0%	0	0%	2	4%	1	25%	6	4%
調査	1	6%	0	0%	1	5%	1	3%	1	17%	0	0%	4	7%	0	0%	8	5%
資金調達	1	6%	1	17%	1	5%	4	11%	0	0%	0	0%	2	4%	0	0%	9	6%
商品開発	4	25%	1	17%	4	20%	4	11%	0	0%	0	0%	10	18%	1	25%	24	16%
担い手育成	0	0%	0	0%	3	15%	4	11%	0	0%	0	0%	6	11%	0	0%	13	9%
イベント開催	0	0%	0	0%	3	15%	6	16%	0	0%	0	0%	5	9%	0	0%	14	10%
環境保全	1	6%	1	17%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	3	5%	0	0%	5	3%
計	16	100%	6	100%	20	100%	38	100%	6	100%	0	100%	57	100%	4	100%	147	100%
該当事例数	6		3		10		11		2		0		17		2		51	

### 3.地域課題と取り組みの特徴(取り組み)

#### 【類型×取り組み】

##### 自然観光地

##### 【単一型】

制度・計画策定,商品開発

##### 歴史観光地

商品開発,イベント開催

【周遊型】 制度・計画策定

##### 複合観光地

制度・計画策定

【単一型】

施設整備,  
商品開発

表5 類型ごとの取り組みの件数

項目	自然単一観光地		自然周遊観光地		歴史単一観光地		歴史周遊観光地		都市単一観光地		都市周遊観光地		複合単一観光地		複合周遊観光地		件数/割合	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
制度・計画策定	4	25%	0	0%	1	5%	7	18%	2	33%	0	0%	12	21%	2	50%	28	19%
団体設立	2	13%	1	17%	1	5%	5	13%	1	17%	0	0%	3	5%	0	0%	13	9%
施設整備	1	6%	0	0%	2	10%	4	11%	2	33%	0	0%	8	14%	0	0%	17	12%
民間施設整備	1	6%	2	33%	3	15%	2	5%	0	0%	0	0%	2	4%	0	0%	10	7%
広告活動	1	6%	0	0%	1	5%	1	3%	0	0%	0	0%	2	4%	1	25%	6	4%
調査	1	6%	0	0%	1	5%	1	3%	1	17%	0	0%	4	7%	0	0%	8	5%
資金調達	1	6%	1	17%	1	5%	4	11%	0	0%	0	0%	2	4%	0	0%	9	6%
商品開発	4	25%	1	17%	4	20%	4	11%	0	0%	0	0%	10	18%	1	25%	24	16%
担い手育成	0	0%	0	0%	3	15%	4	11%	0	0%	0	0%	6	11%	0	0%	13	9%
イベント開催	0	0%	0	0%	3	15%	6	16%	0	0%	0	0%	5	9%	0	0%	14	10%
環境保全	1	6%	1	17%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	3	5%	0	0%	5	3%
計	16	100%	6	100%	20	100%	38	100%	6	100%	0	100%	57	100%	4	100%	147	100%
該当事例数	6		3		10		11		2		0		17		2		51	

制度・計画策定や商品開発等の複数の取り組みによって地域課題の改善を図っている

# 4.選出した事例の詳細

地域課題の改善方策の詳細を把握するため、対象事例51件から、7事例を選出し、文献等によって詳細に調査を行った(表6)

## 【事例の選定方法】

- a. GDTOP100や観光庁の先進事例集で紹介されている事例
  - b. 複数の取り組みが確認できる事例
- a,b両方に適合する事例を、各類型から1件ずつ選定した注4)

表6 選定した事例の概要

事例ID	事例名	所在地	人口	主な観光資源	地域課題	取り組み	取り組みの効果
①	単一型自然観光地	沖永良部島	11,996人(2020年)	洞窟、ビーチ、鍾乳洞、海岸	人口減少、島の機能維持、生業の担い手不足(農業)	【制度・計画策定】 沖永良部島観光振興計画策定 沖永良部島観光連盟事務局開設 組織を法人化、「一般社団法人おきのえらぶ島観光協会」の発足 【民間施設整備】 観光交流拠点施設(美術館) 【広告活動】 ケービング習得体験プログラムのプロモーション開始 【調査】 来訪者アンケートの実施 【商品開発】 窓口での特産品販売 島のポータルサイト等を自主財源で整備・運営し、特産品等の販売を開始 体験型アクティビティ等の企画・運営	自主財源の確保、訪問客の増加、観光による地域経済の活性化
②	単一型歴史観光地	竹富町	3,942人(2020年)	年中行事、集落景観	伝統的建築技術の継承、集落と文化の保全、地域特有の「うつくみ」※の精神の継承	【団体設立】 「遺産管理型NPO法人たきどろん」の発足 島内外の人による全国竹富島文化協会の設立 島民による「うつくみ精神」を保全するための財団の立ち上げ シンポジウム、講演会、会誌の発行による島の祭事・芸能の啓発活動 【資金調達】 全国で初めて地域自然遺産法に基づく入料の徴収開始(2019年) 入島料(300円/人)を島の環境保全活動に充当 【商品開発】 体験プログラムの実施、特産品の開発・販売	定住人口の増加、「うつくみ」の精神の保全、島の文化の保存・継承 出典元: 持続可能な観光の実現に向けた先進事例集 2020年度
③	単一型都市観光地	沖縄県	1,467,480人(2020年)	空手発祥地	観光客の潜在数が多い、沖縄空手の保存・継承・教育、後継者不足、研修生の減少、道場の経営困難、門徒数の減少	【制度・計画策定】 県庁内に空手の振興課の設置 沖縄空手振興ビジョンの策定 【施設整備】 沖縄空手振興ビジョンロードマップの策定 世界中の空手愛好家を迎える交流拠点として「沖縄空手会館」の利用開始 【広告活動】 空手発祥の地としてPR実施 【調査】 実態調査の実施	沖縄空手の保存・継承・教育
④	単一型複合観光地	与論島	5,115人(2020年)	珊瑚礁、海、砂浜、与論十五夜踊り	オニヒトデ大量発生、サンゴの白化現象、海岸環境の悪化	【施設整備】 行政(与論町)による主要な海岸に「拾い箱」の設置 【広告活動】 活動紹介のプロモーションビデオ制作 新聞、テレビなどのメディアによる周知 【調査】 海岸清掃活動等を表彰し人材を確保 環境省から委託されたモニタリング調査 民間団体による珊瑚礁調査 【資金調達】 与論町の財源の一部としてふるさと納税を珊瑚礁と共生する環境保全活動等に活用 【商品開発】 海洋ゴミの清掃・珊瑚礁のチェックを体験プログラム化 【担い手育成】 小中学校で海を守る人材の育成のための海洋教育を開始 【環境保全】 行政による海岸清掃活動、ゴミ袋等の資材支援、ゴミの回収・処理、有害生物の駆除	海洋ゴミの減少、海岸環境の回復、珊瑚礁の保全
⑤	周遊型自然観光地	宮津市	16,758人(2020年)	天橋立	伝統工芸の後継者不足	【団体設立】 「丹後藤織り保存会」設立 【施設整備】 「藤織り伝承交流館」が設立 【商品開発】 藤織り体験を盛り込んだツアーを企画 【担い手育成】 藤織り講習会の開催 【イベント開催】 藤織り展を定期的に開催	伝統美術の保存・普及、後継者の育成
⑥	周遊型歴史観光地	大洲市	40,575人(2020年)	歴史的町並み	景観保全地区の人口減少による放置された不動産、高齢化、町の荒廃、歴史的建造物の消失	【制度・計画策定】 歴史的建造物の所有者への補助金の整備や条例施行 まちづくりコンサルタント2社とのPPP協定 【団体設立】 空き家管理のためのNGOの設立 行政、コンサルタント、宿泊業、金融機関によるDMOの設立 行政、大学、金融機関、コンサルタントの分野からなるチームを構成 【民間施設整備】 改装した歴史的建造物を宿泊施設として賃貸 【資金調達】 歴史的建造物の借賃や買取、改装を実施 伊予銀行によるまちづくりファンドの組成 【担い手育成】 「まちづくり大学」の開催 地域住民向けの勉強会を月1回実施	景観を維持しながら持続可能な循環を構築、33戸の空き家の解消、20社の事業参入
⑦	周遊型複合観光地	東松島市	39,098人(2020年)	海岸の景観、特産品(牡蠣、海藻)	東日本大震災の被害による観光資源の壊滅	【制度・計画策定】 観光計画の策定 【広告活動】 SNSによる宣伝 【資金調達】 ふるさと納税からの寄付金をトレッキングコースの維持管理資金として活用 【商品開発】 官民協力による「オルレ」というトレッキングコースの作成	トレイルイベントが地元企業間の協力のきっかけとなる、地元の小中学校の活動にも取り入れられ、世代を超えたコミュニケーションツールとなる、避難先としての活用、地域の誇りの構成

注4)条件①②に適合する事例が2件以上あった場合は、取り組みの数が最多なものの事例を選出した。また、対象事例51件内に周遊型都市観光地に該当する事例がなかったため、選出できなかった。

※「うつくみ」とは、竹富島に古くから根付いている「一致協力すること」を意味することである。

## 4.選出した事例の詳細

### 【類型×地域課題×取り組み】

表6 選定した事例の概要(抜粋)

#### 【類型×地域課題×取り組み】

##### 【自然観光地】

人口減少,農業の担い手不足

▶観光振興計画の策定や特産品・体験プログラム等の商品開発

##### 【歴史観光地】

集落と文化,歴史的町並みの保全等の地域文化の継承問題

▶特産品・体験プログラム等の商品開発,制度・計画策定や行政,金融機関等の連携による団体の設立

##### 【都市観光地】

空手等の芸能の保存・継承等の地域文化の継承問題

▶振興計画等の制度・計画策定や施設整備

##### 【複合観光地】

サンゴの白化現象や海岸環境の悪化等の自然環境問題

▶施設整備や体験プログラム等の商品開発

##### 【歴史観光地】

集落と文化,歴史的町並みの保全等の地域文化の継承問題

▶特産品・体験プログラム等の商品開発,制度・計画策定や行政,金融機関等の連携による団体の設立

## 5.総括

### 観光が地域課題の改善に作用している観光地の立地と観光資源

範囲が狭小な地域では観光による改善策の効果が発揮しやすい可能性がある  
自然資源や郷土景観等の地域特有の資源を複合的な観光資源として利用

### 地域課題と取り組みの傾向

#### 【自然観光地】

人口減少,農業の担い手不足

▶観光振興計画の策定や特産品・体験プログラム等の商品開発

#### 【歴史観光地】

集落と文化,歴史的町並みの保全等の地域文化の継承問題

▶特産品・体験プログラム等の商品開発,制度・計画策定や行政,金融機関等の連携による団体の設立

#### 【都市観光地】

空手等の芸能の保存・継承等の地域文化の継承問題

▶振興計画等の制度・計画策定や施設整備

#### 【複合観光地】

サンゴの白化現象や海岸環境の悪化等の自然環境問題

▶施設整備や体験プログラム等の商品開発

### 今後の課題

日本有数の温泉観光地である別府市を研究対象地として,地域の実態と課題の分析,その地域課題に対する改善方策の検討を行う

# 参考文献

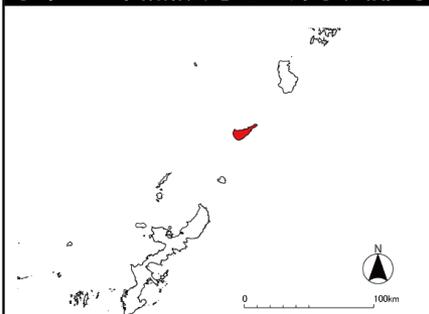
- 7) 浦山佳恵・須賀丈・畑中健一郎(2022)「長野県開田高原における木曾馬文化を活用した草地保全の取組み」(社)日本地理学会日本地理学会発表要旨集
- 8) 渡辺安菜・岡村祐・篠朱莉・菅井純也(2022,12)「御師集落の観光化に関する事例調査－御岳山・羽黒山・大山・戸隠御師集落の立地や施設設備状況に着目して－」第37回日本観光研究学会全国大会学術論文集,pp.215-220
- 9) 梅川智也・吉澤清良・福永香織(2015,9)「温泉地における安定的なまちづくり財源に関する研究－入湯税を中心として－」日本観光研究学会機関誌,No.1pp.91-100
- 10) 竹田英司,小林善輝(2020,6)「長崎県波佐見町の観光経済：農業と窯業の産業観光」長崎県立大学論集（経営学部・地域創造学部）第54巻第1号
- 11) 河本大地, 重永瞬, 菊川翔太, 森下航平, 西山幸志, 渡邊一輝, 小林友莉, 石川聡一郎, 原川優羽紀, 高原佳穂(2023)「柿産地としての奈良県五條市における生産・流通と担い手－「日本一の柿のまち」の課題と可能性－」(社)日本地理学会日本地理学会発表要旨集
- 12) 武田美恵(2020,3)「徳島県海部郡美波町における遍路宿を活用した地域活性化に関する考察」日本インテリア学会論文報告集,30号
- 13) 町田知未(2021)「北海道中川町における地域資源の観光利用に至る過程と主体間の相互関係」(社)日本地理学会,日本地理学会発表要旨集
- 14) 張明輝(2020,3)「妖怪文化による地域活性化に関する研究－インバウンド観光の視点に基づく－」福知山公立大学研究紀要,第3号1,pp.151-164
- 15) 藍場将司,原田一宏(2022)「地域資源としての大島軸の生産の現状と存続に向けた取組み－奄美大島の事例」環境情報科学学術研究論文集,pp.185-190
- 16) 観光庁「持続可能な観光の実現に向けた先進事例集2020年度」  
URL:<https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001395438.pdf>(2024年2月13日最終閲覧)
- 17) 観光庁・UNWTO駐日事務所「持続可能な観光の実現に向けた先進事例集」2023年3月  
URL: <https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001610480.pdf>(2024年2月13日最終閲覧)
- 18) 溝尾良隆「改訂新版 観光学 基本と実践」,古今書院,2015年1月
- 19) 姫野由香,大堂麻里香,西悠太(2016)「観光まちづくりのライフサイクルと観光戦略の傾向」2016年度日本建築学会大会,都市計画部門,研究懇談会資料集「観光地域は都市計画・まちづくりに何を期待するのか?」,pp.9-12
- 20) 川原晋,岡村祐(2017)「地域観光プランニング」試論－地域の総合力で推進する「地域観光」像とその計画技術－」観光科学研究,10号,pp.99-104

## 4.選出した事例の詳細

### 【類型×地域課題×取り組み】

表6 選定した事例の概要(抜粋)

#### ①単一型自然観光地 沖永良部島



所在地 鹿児島県大島郡知名町  
人口 11,996人(2020年)

主な観光資源  
洞窟,ビーチ,鍾乳洞,海岸

地域課題  
人口減少,島の機能維持,  
生業の担い手不足(農業)

取り組み

【制度・計画策定】 沖永良部島観光振興計画策定

【団体設立】 沖永良部島観光連盟事務局開設  
組織を法人化「一般社団法人おきのえらぶ島観光協会」の発足

【民間施設整備】 観光交流拠点施設を創設

【広告活動】 ケイビング洞窟体験のプログラムのプロモーション開始

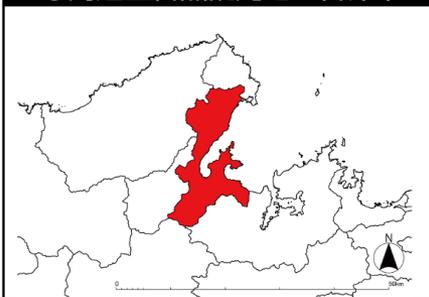
【調査】 来訪者アンケートの実施

【商品開発】 窓口での特産品販売  
島のポータルサイト等を自主財源で整備・運営し、  
特産品等の販売を開始  
体験型アクティビティ等の企画・運営

取り組みの効果  
自主財源の確保,訪問客の増加,観光による地域経済の活性化

出典元:持続可能な観光の実現に向けた先進事例集(2023年)

#### ⑤周遊型自然観光地 宮津市



所在地 京都府宮津市  
人口 16,758人(2020年)

主な観光資源  
天橋立

地域課題  
伝統工芸の後継者不足  
出典元 GDTOP100(2023年)

取り組み

【団体設立】 「丹後藤織り保存会」設立

【施設整備】 「藤織り伝承交流館」が設立

【商品開発】 藤織り体験を盛り込んだツアーを企画

【担い手育成】 藤織り講習会の開催

【イベント開催】 藤織物展を定期的に行う

取り組みの効果  
伝統美術の保存・普及,後継者の育成

※「うつぐみ」とは、竹富島に古くから根付いている「一致協力すること」を意味する、島での生活全般に関わる言葉・精神のことである。

自然観光地

人口減少,農業の担い手不足

▶観光振興計画の策定や特産品・体験プログラム等の商品開発